

医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業
戦略的国際共同研究プログラム(SICORP)
日本・北欧共同研究 事後評価
課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名	Nordic-Japan multidomain interventions for healthy aging and prevention of dementia and disability (NJ-FINGERS)
研究開発代表者	荒井 秀典
代表機関	国立長寿医療研究センター

○評価委員会コメント

成果：

- 日本と北欧の研究者が連携し、認知症予防に関する多因子介入研究および観察研究を比較・統合解析することにより、アポリボタンパク E の対立遺伝子 $\epsilon 4$ (APOE $\epsilon 4$) 保有者やグリア繊維性酸性タンパク質 (GFAP) 高値者等のリスクが高い集団に対する介入効果が示唆されるなどの重要な知見を得た。
- バイタルティーインデックスに基づいた予後予測研究により、日常生活機能の維持が死亡リスクに与える影響を定量的に示したことなど、認知症の発症と予防に関する新たな科学的知見を創出した。
- パンデミックや災害時に、社会的・文化的背景を考慮した支援体制の設計が必要であることなど、日本と北欧を比較することによる成果が得られた。
- 日本と北欧の強固な国際ネットワーク形成と若手研究者の育成を実現した。
- メタ解析による個別化介入の科学的裏付け、実装条件に応じた介入モデル開発、デジタル技術と地域資源を用いたハイブリッド型認知症予防介入の実施などの今後の展開が期待される。

課題・改善点：

- 国際共同論文による成果の報告が期待される。
- 生活習慣病の管理、運動・栄養指導、認知トレーニング等の多因子介入プログラムでは各因子の寄与度などを考慮し個別化予防や現実的な実装につながる検討があるとより良い。